

プロトコール名

アバスチン(5mg)+sLV5FU2

 進行・再発癌

 術後補助化学療法

 術前補助化学療法

 大量化学療法

 局所療法

 その他()

投与順	抗癌剤名(商品名・略号)	1日投与量	投与方法	投与時間	投与日(d1, d8等)
1	ベバシズマブ(アバスチン)	5mg/kg	div	初回90分 2回目以降 60~90分 3回目以降 30~90分	d1
2	レボホリナート(L-LV)	200mg/m ²	div	2時間	d1
3	フルオロウラシル(5-FU)	400mg/m ²	iv	15分以内	d1
5	フルオロウラシル(5-FU)	2400mg/m ²	div	46時間	d1~2
1コース期間 (次コースまでの標準期間)		2週間			
総コース数		PDまたは副作用が許容できなくなるまで			
コース間での休薬の規定		<ul style="list-style-type: none"> ・出血 Grade2の場合 ・タンパク尿Grade2, 3が発現した場合、2g/日以下になるまで ・肝機能障害 Grade3以上の場合 ・血栓症/塞栓症(静脈系)Grade3(初回):回復、あるいは抗凝固療法が終了するまで休薬 ・高血圧Grade2、3:降圧剤を開始しgrade2未満になれば再開 			
減量規定・中止基準		中止基準 <ul style="list-style-type: none"> ・過敏症 Grade3以上 ・消化管穿孔又は裂開の発現時 ・血栓症/塞栓症(静脈系)Grade3以上 ・血栓症/塞栓症(動脈系)Grade1以上 ・高血圧 薬剤でコントロールできないGrade3以上 ・出血 Grade3以上 ・喀血 Grade1以上 ・タンパク尿 Grade4 ・可逆性後白質脳症症候群が発現した場合 			
投与量の増量規定		なし			
投与期間の短縮規定		なし			
コースによる変化		なし			
1日の中での抗癌剤投与順		アバスチン → レボホリナート → 5-FU			
プレメディケーション・ポストメディケーション		デキサメタゾン注6.6mg			

患者条件(初回投与)

※NCI-CTC AE v4.0

- ・PS 0~2
- ・主要臓器機能が十分保たれている
- ・L-OHP、CPT-11を使用したくない場合

除外規定

- ・本剤の成分に対し過敏症のある患者
- ・妊婦又は妊娠している可能性のある患者
- ・喀血(2.5mL以上の鮮血の喀出)の既往のある患者
- ・手術実施日より、28日以内の患者
- ・血栓塞栓症合併(既往歴の場合は、慎重投与)

実施上の注意点

・アバスチンの初回投与は90分かけて点滴静注する。初回投与の忍容性が良好であれば、2回目の投与は60分間で行っても良い。2回目の投与においても忍容性が良好であれば、それ以降の投与は30分投与とすることができる。